

達古武地域における森林再生について (調査・事業の流れ)

目 的

●達古武沼及び周辺河川の集水域を対象として、現状では裸地、ササ地、植林地が目立つ丘陵地にミズナラなど落葉広葉樹林を主体とした、この地域本来の豊かな森林を再生する。そのことによって、湖沼、湿原、湧水、河川などの水環境と周辺の森林が一体となった生態系の質を向上させ、生物の多様性と、保水力、土砂流出防止などの機能を総合的に高めていく。

基本計画作成に向けた調査検討（１４年度事業）

●基礎データの収集と再生候補地検討ベースマップの作成

- ・対象地域（４つの集水域、約４千ha）の植生、地形、水環境等基礎データ収集
- ・植生区分や森林属性(樹木サイズ・うっぺい度)による再生候補地検討ベースマップ作成

●目標とする森林の検討

- ・対象地域本来の森林の構造や過去からの森林の変遷を把握
- ・対象地域内の比較的自然性の高い森林の状況を把握

●保全・再生優先度の検討

- ・植生区分や地形などの自然条件から、以下の条件にあった場所を検討・抽出
 - ①保全の必要性の高い良好な森林
 - ②生態系保全・回復の視点から再生優先度の高い場所
 - ③土砂流出防止の視点から再生優先度の高い場所(今後、土地所有や地域の意向など、社会条件からの検討が必要)

●育苗・植栽、食害対策等の手法検討調査

- ・今後、再生事業内容・手法を検討する上で必要な情報を得るため、種子採取・貯蔵、育苗、植栽、食害対策等に関する試験的な調査を実施
- ・育苗、植栽等への市民参加の受け入れや地域連携の可能性についても検討

●生育阻害要因の検討

- ・今後、再生対象地で事業を実施する上で必要な森林生育阻害要因（シカ等の食害、風害、土壌凍結、土質、崩壊地、ササ繁茂など）の解明と対策について、予備的に調査・検討

●達古武地域の森林再生の基本方針整理

- ・再生の目的・目標、再生手法、モニタリングと評価、市民参加と地域連携のあり方などに関する基本方針を整理

基本計画作成に向けた調査検討（１５年度事業）

●基礎データの収集・補完とベースマップの修正

●再生事業対象地の検討・選定

- ・自然条件からみた優先度と土地所有、地域の意向等の社会条件からみた実施可能性の両面から、再生事業対象地を検討・選定

●再生事業内容・手法の検討

- ・再生事業対象地毎に、自然環境条件や生育阻害要因を明らかにして、地区の特性に応じた事業内容・手法を検討。地元産種子による育苗システムについても検討。

●モニタリング・評価手法の検討

- ・森林再生の評価項目・指標について調査・検討。再生サイトの比較対象となるリファレンスサイト（標準区）を設定。モニタリング・評価手法の検討。

●市民参加・地域連携プログラムの作成

- ・育苗、植栽、モニタリングなどを市民参加・地域連携のもとで進めていくプログラムを作成

基本計画の作成（１５年度）

●達古武地域の森林再生計画の作成

事業の実施

モニタリング実施・評価

事業の見直し